

27AB-pm305

2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価
○西村 奏咲¹, 来海 徹太郎², 河井 伸之¹, 北山 友也¹, 三浦 健¹, 安井 菜穂美¹,
中林 利克¹ (¹武庫川女大薬・薬学教育推進センター, ²武庫川女大薬・薬化学Ⅱ)

【目的】本学では、2014年度より強化教育の必要な初年次学生を対象に、高校までの受動的学習態度から能動的・自立的学習態度へ変換させることによる学力向上を目的として、少人数・双方向型授業（習熟度別授業）を導入した。今回は、有機化学系科目の習熟度別授業における学習効果について解析を行った。

【方法】入学時に実施した化学学力試験結果における強化教育対象者を Basic クラス、他を Regular クラスとし、Basic クラスには強化教育（1クラス15名、授業回数増、毎回の形成的評価、提出課題等）を、Regular クラスには従来の授業を実施した後、同一の単位認定試験を実施した。後期は前期科目の成績を基にこの二種類のクラスに分け、同様な習熟度別授業を実施した。Basic クラスの成績推移について、習熟度別授業導入前後で比較を行った。また、アンケート調査により得られた学生本人の自覚・満足度と、理解度の評価の対比を行った。

【結果および考察】強化教育対象者の多くは、強化教育導入前の Basic 相当学生に比し、成績が飛躍的に上昇した。この上昇の原因の一つとして、強化教育対象者となることで自身の学力レベルに危機感を感じたこと、および少人数・双方向型の教育手法が学生のモチベーションを向上させるのに有効であったことなどがアンケート結果から推察された。また前期 Basic クラス・後期 Regular クラス所属学生の後期中間試験結果から、強化教育対象外となった後も学力を維持していることが分かり、強化教育を実施することで学習習慣の修得に繋がったことが示唆された。大学入学後は、早期に各自の学力レベルを把握させ、低習熟度者には手厚い指導を行うこと、および、学習が成績向上に繋がることを実感させることが重要であると思われる。